

施設名	足立区立東保木間保育園
施設所在地	足立区東保木間1-25-2-101
法人名	社会福祉法人高砂福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（色）

<テーマの設定理由>

お子さんたちが日ごろの園生活の中で散歩や園庭あそびなどの時に、花や葉っぱなどの色の違いに気づいて話す姿が見られるようになった。「この花ピンク!」「オレンジ色のお花キレイだね」など自然の中の色に注目することをきっかけに、観察力や表現の幅を広げていけると思いました。自然の中で色を感じる経験を通して、感性や心の豊かさを知って欲しいと考えました。感じたことを言葉にして、自己表現の喜びを味わえること、「綺麗」「不思議」という感覚を大切にしたいと思いテーマを「自然（色）」としました。

2. 活動スケジュール

【6月】植物から色は作れるかな？ 【7月】①赤紫蘇から色水は作れる？②赤紫蘇の色水や色氷はどう変化する？ 【8月】色氷で絵を描くとどうなる？ 【9月】カラーメガネでのぞく世界はどんな色？ 【10月】自分でつくったカラーメガネから見える世界は何色？（セロファンを使用し制作を行う）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】

・園専用iPhone（キッズリー）印刷機（撮影した写真を印刷・掲示するため）、あじさい、赤紫蘇などの花や葉っぱ（色水作りに使用）・透明容器、ジップロック（色の変化が観察しやすいように）・すりこぎセット（色が出やすいように植物をすり潰すため）・水・虫眼鏡やルーペ（観察用）・図鑑（使用した植物を調べる）・製氷皿（色氷づくりに使用）・和紙半紙画用紙（色水で色をつける）・絵具（色氷づくりに使用）・カラーセロハン（カラー眼鏡作りに使用）・折り紙、紙皿、透明粘着テープ、紐、はさみ、のり（制作に使用）・懐中電灯（完成した作品に光をあてるのに使用） 【環境の工夫】お子さんたちが自由に道具を使用したり、素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。保育士はお子さんの自然な気づきや言葉をひろってあげられるようにしていた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

いつもは絵具やクレヨン、色鉛筆を使い色を出していたが、園庭遊びや散歩のときに草花を摘んで色水を作ることを伝えて、どんな草花だと色がでるのか、何色になるのかを考えながら草花を選んで摘んだ。まずは摘んだ草花がどうなっているかを虫眼鏡を使ったりして観察をした。次に摘んだ草花をどうやったら水に色が出るのか、色が濃く出るのかを道具を選びながら考えながら行い、一人一人が色の出方が違う色水が完成した。「あじさいは色が出にくい」ということに気づいたため、次は色の出やすい赤紫蘇を用意し、より色に注目できるようにした。摘んだお花ではなく赤紫蘇を用意して、より色が出しやすいものを用意して色水を作った。赤紫蘇で作った色水で色氷を作り、染みやすい素材の、和紙・半紙・キッチンペーパーなどの素材にいろが着くのか観察を行った。色氷が溶けて紙に色が染み込んでいく様子に興味を示したため、次の活動ではさらに色を増やして3色（赤・青・黄）の混ざり合いを楽しめるようにした。色の混ざりを知って欲しいということで、3原色の色を絵具で出し、色氷を作り、氷はどうなるのかや色はどんな色になるのかを行ってみた。お子さんたちは、3原色が混ざることで、紫・黄緑・オレンジがつかれることに気づいていた。続いては色水ではないカラーセロハンという別の素材のものではどうなるのかを知るために、3原色のカラー眼鏡を使用して物の見え方や混ざり方を観察をした。カラーセロハンで作ったメガネを持って自由に室内や戸外を探索する中で、身の回りの物の色が変わって見えること、異なる色のセロハンを重ねると色が変わること、重ねたセロハンから覗いたものもその色に見えること等、様々な発見があった。カラーセロハンで作ったメガネを持って自由に室内や戸外を探索する中で、身の回りの物の色が変わって見えること、異なる色のセロハンを重ねると色が変わること、重ねたセロハンから覗いたものもその色に見えること等、様々な発見があった。そして、園庭に出て外のものも見ると、太陽の光を通すことで、影に色が付くことに気付くことが出来た。その際に2枚重ねると3原色以外の色にもなることに喜び興味を持ち何度も試していた。光を通すときれいに色が付くことを知ることが出来たので、最後の活動でスタンドグラス制作を行うことにした。2・3歳児は紙皿をくり抜いて、透明テープにあらかじめ切っておいたカラーセロハンを自由に貼り、スタンドグラスを作った。4・5歳児は折り紙を折り、はさみで切り込みを入れて様々な穴を作り、そこにカラーセロハンを貼り、スタンドグラスを作った。光りがさす窓に飾ったり、懐中電灯で自分の作った作品に光を当て、壁に当たるようにして自分の作ったスタンドグラスのきれいな模様を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

いつもは絵具やクレヨン、色鉛筆を使い色を出していたが、園庭遊びや散歩のときに草花を摘んで色水を作ること伝えて、どんな草花だと色がでるのか、何色になるのかを考えながら草花を選んで摘んだ。まずは摘んだ草花がどうなっているかを虫眼鏡を使ったりして観察をした。次に摘んだ草花をどうやったら水に色が出るのか、色が濃く出るのかを道具を選びながら考えながら行い、一人一人が色の出方が違う色水が完成した。→この活動の時には、観察の時に「花びらの色は1色」「匂いはする？」など保育士が質問をすると、「同じ青でも薄い色と濃いところがある」「土の匂いがする」「お花の匂いがする」など自由に感じたことを言葉にしていた。色水を作り始めると、「きゅうりの匂いがする。」「すいかの匂いに似ている」「〇〇ちゃんのは色が濃くなった」など感じるまま表現していた。

摘んだお花ではなく赤紫蘇を用意して、より色が出しやすいものを用意して色水を作った。赤紫蘇で作った色水で色氷を作り、染みやすい素材の、和紙・半紙・キッチンペーパーなどの素材にいろが着くのか観察を行った。→この活動の時には、前回使った草花に比べると「色がとっても濃くなった。」という感想があり、氷を使用して太陽に当ててどうなるかを見ると、「ゆっくり溶けて濃いところと、薄いところが出来た。」と気づくことが出来た。3原色の色を絵具で出し、色氷を作り、氷はどうなるのかや色はどんな色になるのかを行ってみた。紫・黄緑・オレンジなどの色は用意していないのに、3原色が混ざることによって3原色以外の色になることを知る。→この活動の時には、「赤の氷を使っているのにピンクの部分もある」「青と赤で紫になったよ」「全部混ぜたら茶色になった」と色の混ざりを楽しんでいた。カラーセロハンという別の素材のものではどうなるのかを知るために、3原色のカラー眼鏡を使用して物の見え方や混ざり方を観察をした。素材は違うけど色が混ざり絵具と同じく、カラー眼鏡を重ねると紫・緑・オレンジになり覗いた先の物もその色に見えることを知った。そして、園庭に出て外のものを見ると、太陽の光を通すことで、影に色が付くことに気付くことが出来た。その際に2枚重ねると3原色以外の色にもなることに喜び興味を持ち何度も試していた。光を通すときれいに色が付くことを知ることが出来た。→この活動の時には、カラー眼鏡を覗くと「全部黄色に見える」「赤と黄色を重ねたらオレンジになったよ」「影は黒いはずなのに色が付いた」「影も色が混ざったよ」など新しい発見に喜ぶ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

草花や赤紫蘇、絵の具、カラーセロハンなど、身近な素材を通して「色」の不思議を探る活動を段階的に行ったことで、お子さんたちの興味や発見が深まっていきました。最初は「色水を作る」という遊びとして楽しんでいましたが、回数を重ねるうちに「どうしたらもっと濃くなる?」「混ぜたら何色になる?」など、自ら考えて試す姿が見ることができました。また、匂いや感触など五感を使って感じ取ることで、単なる色あそびにとどまらず、自然や光への関心へと繋がっていきました。友達同士で「〇〇ちゃんのは濃いね」「赤と青で紫になったね」など自由に言葉を交わし、表現し合い伝え合うことで、互いの発見を共有し合う姿も印象的でした。

一つの「色」というテーマでも、素材や方法を変えることでお子さんの関心が増えて探究につながることを実感しました。保育士の声掛けやちょっとした言葉の影響は大きく、言葉掛けの工夫を少しするだけで、子どもたちの視点が変わったり、より多くの発見ができることに気づかされました。

カラーセロハンの活動では、お子さんたちが自ら何度も試す姿があり、実験しているような楽しさを感じながら学ぶことができていることを見ていて感じました。探究に正解はない（正解は一つではない）こと、また、一緒に考える姿勢を大切にすることで、「どうしてそうなるの?」という探究心がお子さまたちの中に芽生え、「知りたい」「やってみたい」という意欲が引き出されるのだと実感することができました。今後も、お子さんたちの声に耳を傾け、些細な疑問や問いに寄り添いながら保育をしていきたいと思えます。